

令和3年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月25日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①カリキュラムマネジメントの視点を踏まえ、多様な生徒に弾力的に対応可能な教育課程を編成する。</p> <p>②学習意欲の高い生徒に対して、個別に支援できる体制をめざす。</p> <p>③言語活動の活性化、協働的な学びを展開し確かな学力を育成する。</p> <p>④資格取得の推進に向けた工業科の指導体制を整備し、受検数及び合格率の向上をめざす。</p>	<p>①生徒が自分の学力の向上、進路実現に向けた学習計画を立てられる。</p> <p>②学習意欲の高い生徒がより一層の向上心を持てるようになる。</p> <p>③ICTによる授業改善で生徒が「わかる喜び」「達成感」を感受できる。</p> <p>④生徒が資格取得の意義を理解し、チャレンジする。</p>	<p>①新学習指導要領の実施、及び建設科設置を見据えた教育課程の構築および年間指導計画を作成する。</p> <p>②学習意欲の高い生徒及び伸び悩んでいる生徒が、向上心を持てるよう外部サービスとの連携等を通して授業内容を充実させる。</p> <p>③タブレット端末を効果的に活用し、生徒それぞれの目標に応じた授業展開を目指す。</p> <p>④生徒の資格取得推進に向けて、科を越えた指導体制を整備する。</p>	<p>①新学習指導要領の実施を見据え、進路希望等に応じられるように教育課程・年間指導計画を作成できたか。</p> <p>②生徒の学習意欲が向上したか。(アンケート調査等)</p> <p>③多数の生徒が「わかる喜び」「達成感」を感じられたか。(授業評価等)</p> <p>④生徒の受検・受講者数が増加したか。(昨年度比)</p>	<p>①新学習指導要領の実施に向けた教育課程の作成は達成できた。現在年間指導計画に替わる単元指導計画の作成を行っている。</p> <p>②③外部サービスを利用し課題等を配信することにより基礎学力の向上につながることができた。また、苦手な教科・単元等を生徒自身が意識することができたため自己学習の支援にもつなげることができた。</p> <p>③タブレット端末および電子黒板を効果的に活用することにより生徒の理解がより深まるような授業を展開することができた。</p> <p>④講習会などを通じて、きめ細かい指導を行うことができた。</p>	<p>①新しい様式である単元指導計画の作成が4月の授業開始までに準備できるようにすること、および生徒が学習内容について詳しく理解できるような計画を立てられるかが課題である。</p> <p>②③学習意欲の低い生徒へのアプローチを工夫すること。また、基礎学力の変化についての調査方法の検討。</p> <p>③新たな機器が導入されており利用方法の周知が間に合っていない。すべての科目で効果的に利用できるよう教員向けの研修を行う必要がある。</p> <p>④継続的に丁寧な指導を行う。</p>	<p>・新学習指導要領実施に向けて、中学校までの既習事項について把握し、これまでの学習が積み重なっていくような計画をお願いしたい。教科によっては、中学校3年生から高校3年生まで4年間のつながりが重要になる教科があるので、生徒の実態に応じた指導になることを期待している。</p> <p>・新学習指導要領の趣旨を理解した授業展開が行われることを期待する。</p> <p>・学校見学をして、専門課程での少人数での授業に感銘を受けた。</p> <p>・ICT機器の活用がさらに必須となる中で、タブレット端末や電子黒板などの有効な活用方法を期待するとともに教員のスキルアップが課題になってくると思う。</p> <p>・在学期間中にできる限り、資格取得を目指す。就職を希望する生徒が多い中、運転免許は必須です。</p>	<p>①到達度テストを実施することにより中学校までの学習状況を把握することができた。また、その結果を授業および個人向けの自己学習課題として配信し、苦手な内容の克服・得意な項目の向上につなげることができた。</p> <p>②新学習指導要領に即した授業を実施するため、また生徒が趣旨を理解するための指導計画を作成することが必要と考える。</p> <p>③一人一台のタブレット端末を活用した授業を展開することができた。今後はより効果的な活用を目指し生徒の学習意欲向上につなげていきたい。</p> <p>④コロナの影響で指導計画に変更が生じたが、昨年同様の成果をあげた。</p>	<p>①到達度テストの結果の検証をより詳しく検証し生徒一人一人の学習状況を把握する。</p> <p>②新学習指導要領の趣旨をより深く理解するための校内研修等を実施し情報共有に努める。</p> <p>③タブレット端末を効果的に活用できるように校内研修を実施し全職員が授業で活用できるような環境を整える。</p> <p>④的確な情報を生徒に発信し、必要性を十分に認識させる。</p>
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<p>①基本的な生活習慣の定着と生徒が主体的に社会のルールやマナーの意味を考える指導の充実を図るとともに、潜在的ニーズにも対応可能な教育相談体制を構築する。</p> <p>②生徒の学校への帰属意識を醸成させるため、学校行事の改善及び部活動を活性化させる。</p>	<p>①生徒一人ひとりの学校生活が充実するようになる。</p> <p>②生徒が行事や部活動に主体的に関わり、自信を持つことができる。</p>	<p>①校内教育相談コーディネータ連絡協議会を開催し、困っている生徒に対して対策を練る。また、学習指導会議を改善実施し、支援教育を必要とする生徒の情報を共有する。</p> <p>②新入生向けの部活動紹介方法の改善や、新部活動の設置等に向けて検討することで、加入率の向上、活性化を図る。</p>	<p>①支援が必要な生徒に対して対策を協議・策定できたか。また、教員間で情報を共有することができたか。(実施回数、学習支援実績の昨年度比)</p> <p>②部活動加入率は向上したか。新部活動設置に向けて準備は整ったか。(部活動加入率)</p>	<p>①月に一度(計8回)の割合で各学年に配置された教育相談コーディネータの連絡協議会を開催し、学年ごとに困っている生徒に対して情報を共有し、適切な支援策を提案し実行できた。学習指導会議を開催し、支援教育を必要とする生徒の情報共有を行うことができた。</p> <p>②部活動紹介は動画を用いて実施してきた。部活加入率についてはコロナの状況や7時間授業などがあり、見学時間が少なかったためか例年に比べ、減少した。いくつかの行事についてはICT活用した形で行うことができた。</p>	<p>①新しい機材の導入を利用した支援方法を考える必要がある。クラス内のテレビやプロジェクター、またclassroomやipadを利用して、視覚に訴え支援できる方法を検討する。</p> <p>②部活動の加入率を上げるためには見学時間を確保する必要がある。しかし授業数確保をするのであれば生徒がいつでもいくつかの行事について知ることでICTを活用していかなければならない。</p>	<p>・高校に入学するまでの、これまでの経験が積み重なり、問題が複雑化しているケースがあると考えられるので、現在の状況のみならず、今後もこれまでの背景を分析した指導・支援となるようお願いしたい。</p> <p>・生徒の学校への帰属意識を醸成させるためだけではなく、社会性を学ぶ上でも部活動への継続的な参加は意義があると考えられる。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症により人と人とのつながりが、さらに希薄になっていると感じる。今後ともぜひ、学校行事や部活動への積極的な参加を促す方策を検討・導入されることを期待します。</p> <p>・部活動の全国レベルの活躍を応援します。</p>	<p>①[成果]月に一度(計9回)の割合で各学年に配置された教育相談コーディネータの連絡協議会を開催し、学年ごとに困っている生徒に対して情報を共有し、適切な支援策を提案し実行できた。学習指導会議を開催し、支援教育を必要とする生徒の情報共有を行うことができた。</p> <p>①[課題]新しい機材の導入を利用した支援方法を考える必要がある。クラス内のテレビやプロジェクター、またclassroomやipadを利用して、視覚に訴え支援できる方法を検討する。</p> <p>②成果としてはICTを活用し、行事を実施することができた。生徒の自信にもつながった。課題としては部活動に加入する生徒が少なかった。</p>	<p>①新しく設置されたみらいスクールステーションやアプリなど活用した支援方法などを研究実践していく。</p> <p>②将来の進路活動につながる意識づけをしていくとともに、部活動体験週間や、Classroomなどを活用し、部活動の加入率を上げる。</p>

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月28日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	<p>①キャリア教育実践プログラムに基づき、学校として体系的な進路指導を行い、生徒の進路実現をサポートする。</p> <p>②建設科の生徒に対応した、進路先(大学、企業)の開拓を着実に進める。</p>	<p>①生徒が主体的に進路選択ができるようになる。</p> <p>②生徒が職業観・勤労観を身に付ける。</p>	<p>①進路選択の幅が広がるようなガイダンスを実施するとともに、ICTを活用した試験対策なども行い生徒一人ひとりの進路実現を目指す。</p> <p>②建設科設置に向けて、インターンシップ受け入れ先に建設業を導入する。</p>	<p>①生徒一人ひとりが主体的に進路活動を行い、進路実現ができたか。(進路実績の比較)</p> <p>②生徒が建設事業所で職業体験を行えたか。(実施事業所数、人数)</p>	<p>①3学年(5/14)、2学年(12/14)向け進路ガイダンス実施、生徒の意識高揚を図った。3学年の91%の進路先決定、昨年同時期85%から改善。</p> <p>②令和4年度建設科第1期生を迎えるため教育課程や教室整備など計画的に検討・実施することができた。</p>	<p>①3学年進路先未決定者(19人)のフォロー、および1,2学年に対する進路ガイダンスの計画・実施。(3月予定)</p> <p>②令和5年度の教育課程の具体的な内容を検討する。</p>	<p>・工業高校の特性から進学より就職が多く、かつ早い時期に決まると推察しますが、生徒各々の希望や適性に沿った進路の選択がされるよう一層の進路先の開拓を進める一方で、より有利に進路決定ができるよう学習指導で資格取得合格率が向上する取組が進められることを期待する。</p> <p>・キャリアパスポートをいかした指導をお願いしたい。また、その生かされ方の具体的な事例を伝えて欲しい。</p>	<p>①保護者会、進路ガイダンス、会社見学、就職試験など、感染症対策を踏まえた対応を確立することができた。今後は就職先ミスマッチ対策としての1人複数社応募の動向調査と課題の洗い出しや、進路ガイダンスの効果的運用を目指した体系的なキャリア教育の構築が課題である。</p>	<p>①将来的な方策として、1人複数社応募についての世間動向の調査と本校での適用に向けた段階的移行計画の策定、進路ガイダンスの効果的運用を目的としたキャリアパスポートの活用を掲げる。来年度はこのファーストステップとして、1人複数社見学についての課題と方策の洗い出し、キャリアパスポートの運用に関わり進路支援Gでの活用方法を検討する。</p>
4	地域等との協働	<p>①地域と連携することを通して生徒のコミュニケーション能力の向上を図り、生徒の「生きる力」を育むとともに「共生」の意識を醸成する。</p>	<p>①生徒が「地域貢献」に関わり、共生及び安全に対する意識が向上する。</p>	<p>①生徒の課題研究において、防災・地域貢献を行う。</p>	<p>①生徒が地域との共生を意識できたか。(振り返りアンケート)</p>	<p>コロナの影響を受けて生徒が地域貢献に関わる場数が減少したがものづくりイベントなど可能な限り参加している。</p>	<p>今後コロナの影響を受けても、内容にもよるがオンラインで可能なものは実施していく。</p>	<p>・コロナ終息後の様々な交流を期待している。特に学校間での既存の交流も含め、新たな地域交流の形が構築できることを期待する。</p> <p>・地域とのかかわりは、とても大切なのでできることを見つけて協働していけるようにしたい。</p>	<p>①ものづくりイベントなど可能な限り参加した。コロナ終息後の様々な交流として学校間での既存の交流も含め、新たな地域交流の形を模索していく。</p>	<p>①地域とのかかわりは、とても大切なので今後コロナの影響を受けても、オンラインで可能なイベントなどは実施していく。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①業務の効率化を図り、職員の働き方改革を推進する。</p> <p>②日常的に、事故・不祥事防止に係る研修会を実施し、職員に当事者意識を持たせるように努める。</p> <p>③職員の学校運営への参画意識の向上を図る。</p>	<p>①業務へのICTの活用を推進する。</p> <p>②職員の自己管理能力を高める。</p> <p>③企画会議にグループリーダー以外の職員も参加する機会を設ける。</p>	<p>①ICTを活用しての情報共有をすすめる、会議の回数・人数の短縮を図る。(職員アンケート)ペーパーレス化はすすんだか。(消費量比較)</p> <p>②職員主体で事故防止研修を実施する。</p> <p>③企画会議にグループリーダー以外の職員が参加したか。</p>	<p>①会議の回数・人数の減少、時間の短縮が図れたか。(職員アンケート)ペーパーレス化はすすんだか。(消費量比較)</p> <p>②職員の自己管理能力・当事者意識が高まったか。(職員アンケート)</p> <p>③参加職員の学校運営への参画意識が高まったか。(職員アンケート)</p>	<p>①職員アンケートの結果、会議回数が減少した67%、会議時間が短縮した50%であった。オンライン授業後の10~1月における紙消費量の比較では前年度比21箱減少した。</p> <p>②職員アンケートの結果、グループ毎の研修の実施について良かった100%、当事者意識が高まった100%であった。</p> <p>③職員アンケートの結果、参画意識が高まった67%であった。</p>	<p>①校務については会議から決裁まで、教務関係については、名簿から成績処理までICTを活用する仕組みを整備するなどして、業務の効率化を目指していく。Wi-Fiの環境改善が必要である。</p> <p>②目的だけでなく具体的な数値目標を設定するなどして、当事者意識を高めていく。</p> <p>③学校運営について、たくさんのアイデアを出せるような仕組みを検討する。</p>	<p>・校務のICT化をはじめとした業務の効率化、職員の働き方改革を推進されていることは素晴らしい。この取組を継続して、教育現場が選ばれる仕事になることを切に願っています。</p> <p>・教職員の学校運営への参画意識の向上は高校だけでなく小中学校でも課題である。参画意識を向上させる効果的な取組の共有を期待します。</p> <p>・職員の働き方改革が職員中心ではなく、生徒と地域社会も含めた改革をやってほしい。</p> <p>・職員の方からできるアイデアなどを常に共有できるICT機器を使った仕組みや環境があるとよい。</p>	<p>①ICTを活用し、会議回数の減少やペーパーレス化をすすめる、業務の効率化と職員の働き方改革を推進する取組をすることができた。継続して取組を続けていくことが重要である。</p> <p>②職員主体で研修を実施し、当事者意識が高まったのは成果である。</p> <p>③参画意識が高まったのは、評価できる。多くの職員から学校運営に対するたくさんのアイデアが出せる雰囲気や仕組み、環境の整備があるとよい。</p>	<p>①ICTを活用した情報共有・資料保存などを積極的に継続していく。</p> <p>・業務の効率化を目指したICTの活用方法について積極的に提案を募り、実現に向けて検討していく。</p> <p>・ICT機器を活用し、多くの職員からのアイデアを共有できる仕組みを整備していく。</p> <p>②職員間の意思疎通を図り、日常的に職員が声をかけ合い、職員が中心となる研修会を実施し、自己管理能力を高めていく。</p>